

ワンニャン通信

H27
2月



まだまだ寒い日が続きます。布団から出たくない毎日です(^ω^);
今月はワンちゃんのワクチンについてです。感染してから慌てるのではなく、
ワクチンにより予防することで、その感染を防ぐことができます。



担当:中島

狂犬病

前兆として現れる症状は元気・食欲の低下、暗所に潜伏、用心深くなったり、興奮しやすくなったりするなどが見られます。

発症すると攻撃的になり、目の前の物に咬みついたり、無目的に走り回ったりします。

食欲は減退し、音や光の刺激に過敏になります。

下顎や舌などが麻痺し、多量の唾液を流し、やがて麻痺が全身に及んで10日程の経緯で死亡します。
(中には、発症しても興奮が見られない場合もあります。)



興奮する
狂暴になる



下顎・下麻痺と流涎



全身麻痺・死亡

狂犬病予防法により
ワクチン接種が義務
化されています。



犬ジステンパー

激しい咳、肺炎などの呼吸器症状、嘔吐や下痢などの消化器症状、病気が進むと痙攣などの神経系がおかされ、麻痺などの後遺症が残る場合があります。

伝染力が強く、死亡率も非常に高い病気です。



高熱や食欲不振



目ヤニや鼻水



神経系がおかされて
マヒになることがある



死亡率が高く
後遺症が
残ることがある

犬アデノウイルス1型感染症(犬伝染性肝炎)

発熱、腹痛、嘔吐、下痢、黄疸、目が白く濁るなどの全身症状、急死することがあります。

生後1年未満の子犬が感染すると、全く症状を示すことなく突然死することがあります。



肝炎



嘔吐や下痢



目が白くにごる
ことがある



子犬の突然死

犬アデノウイルス2型感染症(呼吸器病)

ケンネルコフと呼ばれる呼吸器病を起こします。肺炎、扁桃炎、激しい咳などの慢性呼吸器疾患。伝染力が非常に強く、治りが悪い病気です。



発熱 元気消失



発咳



鼻汁



他のウイルスとの
混合感染で
症状が重くなる

犬コロナウイルス感染症

成犬の場合は軽度の胃腸炎ですむことが多いのですが、子犬の場合は嘔吐と重度の水溶性下痢を引き起します。子犬ほど重篤で突然死することがあります。



胃腸炎



子犬で感染すると
嘔吐と重度の水溶性下痢



パルボウイルス感染症と
混合感染で
より症状が重くなる

犬パルボウイルス感染症

激しい嘔吐、下痢、食欲不振、急激な衰弱。

重症になると脱水症状が進み、短時間で死亡することもあります。冬に多発し、死亡率も非常に高く、伝染性の強い病気です。



激しい下痢や嘔吐



急激な衰弱



短時間で
死亡することがある



伝染性の強い
病気

犬パラインフルエンザウイルス感染症

ケンネルコフと呼ばれる呼吸器病を起こします。激しい慢性の咳。伝染性が非常に強い病気です。



発熱 元気消失



発咳



鼻汁



伝染性が強く
他のウイルスとの
混合感染で
症状が重くなる

犬レプトスピラ感染症(黄疸出血型)

発熱、黄疸、嘔吐、下痢、歯肉からの出血が起こり、死亡率も高い病気です。



発熱、黄疸



歯肉からの出血など



人にもうつる

犬レプトスピラ感染症(カニコーラ型)

激しい嘔吐、下痢、脱水、尿毒症が起こり、死亡率も高い病気です。



筋肉痛



脱水症状から尿毒症になる



腎臓疾患や肝臓疾患